



## ■ 総 会

新型コロナウイルス感染症拡大によりまん延防止等重点措置が発令中だったため、4月22日(木)に世田谷区立八幡小学校で予定されていた総会は、縮小して開催されました。参加者は常任理事のみ、内容も多摩南ゾーンの研究報告及び志民先生のご講演のみとなりました。

はじめに、峯岸敦子会長からの挨拶があり、「何があってもおかしくない状況ですが、皆さんで力を合わせて何とか乗り切つて、楽しい音楽の授業をつくっていきましょう。」とお言葉がありました。

総会の議事については、昨年度同様ホームページを活用して進行させていただき、無事承認されました。皆様ご協力ありがとうございました。

## ■ 多摩南ゾーン大会研究報告

昨年度紙面発表となった、多摩南ゾーン研究大会の報告がありました。研究主題「見つけよう 深めよう 生かそう 音楽を」の下、目指す児童像の実現に向けての様々な取組が具体的に発表されました。「今回の研究内容をこれからの授業で実践し、『児童が主体的に学ぶ授業』・『対話を生かして深い学びにつながる授業』になるのかを検証していくことが今後の課題である。検証の結果を多くの先生方で交流し、今後の都小音研大会等に生かしていただきたい。」と結びの言葉がありました。また、公開授業、研究演奏をする予定だった先生方お一人お一人から、どのような授業や演奏を目指したのか、動画で一言ずつ紹介がありました。さらに、大会のフィナーレで全員合唱するはずだった曲『大切なもの』を、多摩南ゾーンの先生方でリモート合唱された動画も流されました。顔を合わせて研究を進めていくことが難しかった中でも、先生方が団結し、熱い思いで取り組まれてきたことが伝わってきました。

研究収録の抜粋は、都小音研ホームページから閲覧することができます。ぜひ日々の実践に積極的に活用していきましょう。



## ■ 講演報告

演題：音楽科における指導と評価の一体化について

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 文化庁参事官(芸術文化担当) 付 教科調査官 国立教育政策研究所 教育課程研究センター教育開発部 教育課程調査官 志民一成 先生

多摩南ゾーン大会研究報告後、志民一成先生によるご講演がありました。まずは昨年度の困難な中で、それぞれの先生方が子供たちの学びを止めないように工夫しご尽力くださったことに感謝の意を表していただきました。さらには音楽の授業でどういう力を身に付けさせたいか、どんな意味があるのかを、改めて考えた一年となり、先生方には学習指導要領をそのよりどころにいただければありがたいとのことでした。

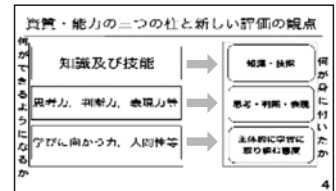
その後「学習指導要領解説」や「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に記載されている具体的な事例を紹介しながらご指導くださいました。



### ○ 評価規準の作成と評価方法の考え方

「先生が何を指導して子供が何をするのか」という活動ベースではなく、「子供たちがどんな力を身に付けて、何ができるようになるのか」という学習の中身が重要視され、資質・能力の三つの柱「なにができるようになるのか」と新しい評価の三観点「何が身に付いたか」がダイレクトに結びつくことにより、学習指導要領の事項の文末を変えるなどすることで評価規準を作成できるなど、指導と評価の一体化が実現しやすくなった。

大事なのは、活動の中ですべての事項を一つ一つ関連付けながら指導を組み立てること。歌唱ならば、歌唱のア、イ、ウ、の事項をすべて題材の中で扱い、それらを関連付けながら題材を組み立てて指導することが必要となる。〔共通事項〕で扱う、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を精選し、一貫性をもってずれることなく指導し、評価できるような授業を考えてほしい。また「解説」には知識の「音楽の構造」について具体的な例示があり、音楽を特徴付けている要素に音楽の仕組みを合わせた形で示しており、立体的に音楽の構造を捉えることが大切である。そして、そこを起点としてみんなで聴き深め、この音楽が自分にとってどう意味があり、どんな価値があるかを考えることが重要となる。



### ○ 複数の領域や分野を組み合わせるときの評価

例えば「春の海」を授業で扱う場合、鑑賞と器楽の両方の学習として位置付けるか、それとも鑑賞の知識を深めるための器楽の活動に位置付けるのかによって、題材構想や評価計画が大きく変わる。学習と活動を分けて考えることで、学習のねらいを焦点化するとともに評価もスリム化できる。このことを先生方がご自身で考えながら授業づくりを進めることが大切である。この点も具体的な事例を示しているのので、ぜひ「解説」や「参考資料」を活用してほしい。

### ○ 学校の授業における学習活動

昨年度は、学校の授業での学習と、学校外での学習の位置付けについて配慮が必要だったが、友達とよりよく学ぶ、という協動的な学びは学校だからこそ実現できるものであり、今後いっそう重要になる学習活動だと思われる。

最後は、「人は一緒に歌うとオキシトシンという幸せホルモンが分泌されるといわれ、『みんなで歌うと気持ちいい!』と、自分にとっての音楽的価値を感じられれば、学習を生かして生活や社会と豊かに関わることにつながります。そして、意味あることを学習する自分も価値のある存在だ、と考えられるような学習を組み立てていく必要があります。鉄腕アトムは、音楽は音が順序よく並べたものとしか感じないが、私たちは、人間だからこそできる音楽教育を続けることに大きな価値があると思います。子供たちの学びが深まっていくよう研究を続けながらご指導ください。」という志民先生のお言葉で講演が締めくくられました。

なお、こちらの研究発表と講演会の動画は、都小音研のホームページより7月末まで閲覧することができます。パスワードは、各地区の理事より連絡があった通りです。

# 今年度の研究について

研究部長 前田 しのぶ（豊島区立池袋第三小学校）

都小音研の研究主題『つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを』は、学習指導要領の改訂と共に、令和元年度の全日音研総合大会小学校部会研究大会から設定されました。さらに昨年度、多摩南ゾーンでは「つながり」をキーワードとして、児童が自ら学びのつながりを実感できるようにと、研究主題『見つけよう 深めよう 生かそう 音楽を』を設定しました。紙面発表となったその一冊から学ぶことは多く、学習指導要領を抛り所に途絶えることなく進めている研究は、全国大会からゾーン大会へと確実に深まっていると感じます。そして本年度、山の手Cゾーン（大田区・品川区・目黒区）は、全国大会、多摩南ゾーンの研究を受け、『つなげよう 広げよう 生かそう 私たちの音楽』の研究主題のもと、令和4年1月27日の品川区立総合区民会館「きゅりあん」での大会を目指し、ゾーン研究を進めています。

終わりの見えないコロナ禍で、今年度の大会も実施方法を変更せざるを得なくなりました。児童を一箇所に集めるリスクを避け、録画による研究授業・研究演奏の発表、それをもとに協議会等を行うという新しい試みです。現状を受け止め、経験のない中でイメージをもち、柔軟にアイデアを出し合い前進している山の手Cゾーンの大会への道のり。その研究内容には、「児童が」という言葉が至る所で表現されています。私たちが目指す児童像は、まさに児童が主体となって学びを進めていく姿です。今こそ私たち教師自身も主体的にゾーン大会から学び、全地区の先生方が授業づくりを楽しめるような一年にできればと願います。

第64回

## 山の手Cゾーン大会に向けて

◆令和4年1月27日(木) ◆きゅりあん(品川区立総合区民会館)

大会推進委員長 田村 泉（大田区立新宿小学校）

山の手Cゾーンの3地区は〈武蔵野台地の東南部にあり、都心に近く、多くの大使館が集まっている目黒区〉、〈西は山の手台地と東は東京湾に面し、旧東海道品川宿の街並みも残る品川区〉、〈東は羽田空港と工業地区の海側、西・南は多摩川に面し、西北部は丘陵地帯の大田区〉というように地理的な地域の特色がそれぞれにあります。また、地形の特色だけでなく、都会的な側面と昔から続く地域の特色を併せもっています。

3区が連携して研究を進めていくにあたり、各区での活動の様子やそれまでの研究経過を伝え合うことからスタートをしました。全日音研全国大会終了直後、大会の提案を受け、山の手Cゾーン大会の研究主題「つなげよう 広げよう 生かそう 私たちの音楽」を決定しました。主題に迫るために各区の子供たちの実態から共通の課題を見付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をどのように図ったらよいかを考え、研究の視点を設けて3区の連携を図りながら研究を進めています。昨年の突然の新型コロナウイルス感染拡大のため、令和2年度の多摩南ゾーンの先生方が研究の発表の形を変えることを余儀なくされました。山の手Cゾーンではそれに引き続き、急速に普及が進んだタブレットを活用して、どのような方法で研究を進めていけるのかを試行錯誤しながら大会を開催します。大会当日は動画による授業及び演奏の発表と、動画を視聴した上での協議会を『きゅりあん』で行います。今までにない、初めての形のこの大会に、是非ご参会いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

# 第58回 児童作曲コンクールについて

事業部

第58回を迎える児童作曲コンクールは、本研究会の歴史ある事業となっております。応募要項(6月理事会以降に各地区理事より配布)をご覧くださいのうえ、ふるってご応募ください。音楽で思いや願いを表現する児童の作品が、たくさん生まれることを楽しみにしております。

(A) 課題詩の部 ※ことばのリズムやアクセントを生かして旋律をつくるようにご助言ください。

「ゆうやけパレット」 うたか いずみ 詩

「わたあめできた」 尾崎 杏子 詩

(B) 自由作品の部 (自由旋律) ・自由ア 旋律のみのもの(自作の歌詞は可)

・自由イ 伴奏等がついたもの

◇作品受付期間 令和3年9月9日(木)～9月16日(木)〈必着〉

◇授賞式・入選作品演奏発表会 令和4年2月10日(木) 会場：カスケードホール(千代田区)

◇作品応募に関する問合せ・応募先

【第58回児童作曲コンクール事務局】

新宿区立牛込仲之小学校(脇田 秀男)

〒162-0064 新宿区市谷仲之町4-33

TEL 03-3358-3762

FAX 03-3358-3755

都小音研ホームページ

(都小音研でも検索可)

<http://tosyouonken.com/>

本コンクールの応募要項・五線紙などをプリントアウトすることもできます。どうぞご活用ください。



※なお、感染症拡大など、社会情勢の影響により、授賞式・入選作品演奏発表会の予定が変更される場合があります。

## 退任役員・新役員の紹介

現行の運営機構に一部変更がありました。

……………〈退任〉……………

副理事長：八尋 崇

監事：早川 修一

……………〈新役員〉……………

副理事長：大湊由紀子(江東・亀高小)

篠澤 章子(荒川・尾久宮前小)

後藤 京子(練馬・南ヶ丘小)

岡崎奈緒子(立川・上砂川小)

\*各種研担当校長\*(変更のみ)

合唱：岡崎奈緒子

電子楽器：篠澤 章子

## ♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈3月理事会〉 3 / 11 於：八幡小学校

議長：田坂 武(港・麻布小)

○会長あいさつ

○議事

- 令和3年度 事業計画について
- 4月の行事予定について
- 令和3年度 総会・研究会について
- 令和3年度 都小音研研究大会について
- 各部より \*庶務 \*会計 \*研究  
\*事業 \*調査 \*広報

## 編集後記

相変わらず感染予防に努めながらの毎日。校内の学芸行事や地区の連合音楽会はどうなるのだろう……と見通しが立たないのも悩ましいですね。そんな中でも「音楽の授業楽しかったです！」と話してくれる子供たちに救われています。2学期からの試行錯誤の日々も楽しめるよう、夏の間にも少しでもリフレッシュしたいですね。(Y)

## 広報「都小音研」今年度の発行計画

①63巻438号 7月発行

総会・講演報告、今年度の研究について 他

②64巻439号 12月発行

学ぶ理事会報告、各種研活動報告 他

③64巻440号 3月発行

ゾーン大会報告、作曲コンクール報告 他

## 会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会長 峯岸 敦子

編集：広報部

印刷：コウシン 03-3324-9288